

車載ナビゲーションシステムにおける交通情報表示技術

十川登志夫* 土井勝次*
萬代博康** 後藤博文*
速水勝朗* 横内一浩*



車載ナビゲーションシステムにおける交通情報の表示

ビーコン等から受信したリアルタイムの交通情報（渋滞情報、規制情報、駐車場情報）を、車載ナビゲーションシステムの地図上に重畠表示する。この情報は、VICSのレベル3と呼ばれる。

現在急速に普及しつつあるナビゲーションシステムは、交通情報を取り込むことにより、更に実用性を高めることができる。1996年4月からはVICS (Vehicle Information and Communication System) という交通情報提供システムが首都圏を中心に運用を開始しており、いよいよ車載ナビゲーションシステムでの交通情報の活用が本格化してきた（VICSは大阪府でも1996年度中に運用開始の予定）。

VICSの交通情報は、レベル1（文字表示型）、レベル2（簡易図形表示型）、レベル3（地図表示型）の三つの形態で提供される。このうちレベル3は、VICSリンクという道路ネットワークをあらかじめ定義しておき、これに基づいて、交通情報を数値コードでデータ化して提供するものである。

レベル3情報のナビゲーションの地図上への重畠表示には、地図データの媒体であるCD-ROMに格納したVICSリンクのデータを用いて、対応する道路線表示用のデータを求め、それを基に受信した交通情報の地図上の表示座標を算出する処理が必要である。

図はVICSレベル3の地図重畠表示例であり、推奨ルートを示す黄色の小さい三角形と渋滞情報・規制情報の表示位置の関係と重なりの優先順を考慮して、画面の良好な視認性を確保している。さらに、地図上に表示しきれない詳細な情報は、重畠表示した各情報に対応する文字情報として表示可能としている。また、VICSレベル3は、通行止め等を回避する推奨ルートの探索等への応用も可能である。